

## 「第 1 回 自立的発展を目指す検討小委員会」における主な意見

### 1. 九州圏の自立的な発展

#### (1) 自立的な九州圏を形成するために必要な視点は何か。

自立的発展を目指す単位を明確にする必要がある

- ・「自立」をどう考えるべきかの整理が必要である。
- ・対象が九州圏としての自立なのか、中山間地域や離島の自立なのかを確認したい。
- ・都市圏や生活圏のエリアをどう設定するか次第で捉え方が変わるのではないかと。  
地域独自の魅力を活かすために地域資源を見直す必要がある
- ・九州がもともと持つ景観を保全することが重要である。景観保全も持続可能性が大事であり、ある程度の人を入れて観光に活かす、あるいは逆に制限し、景観保全するなどが必要である。

#### (2) 農林水産業の新たな展開を考えるべきではないか。

- ・農業の経済的自立は、独自農業、直販、従来からの産地形成の 3 パターン。しかしこれらが可能な農家は全体の 3 % 程度ではないか。こうした切り分けを行った上で、残りの兼業、高齢農家をどうするかが課題である。
- ・農林水産業の捉え方の基本は経済的側面での自立である。外部経済(相互扶助)のために都市からの負担をあてにすることは困難であり、産業として成り立たないところをどうするかが課題である。

#### (3) 都市と中山間地域等の農村漁村との交流を推進する必要があるのではないかと。

- ・交通体系が整備されれば中山間地から出て行く子どもたちも近くの都市へ住むのではないかと。
- ・都市の自立を支えている中山間地域の役割などの互惠関係を評価することを考えていく必要がある。

#### (4) 中山間地域等の集落をどこまでどのような形で維持すべきか。

- ・行政コスト、経済コストを考えて移動させるとしたとき、どういう権限で移動させるのか。決定するのは居住者である。地域を経済的側面のみで考えてよいか疑問である。
- ・行政によるフルサポートを行えば、誰も移転したいとは思わない。限界のサポートレベルを見極める必要がある。
- ・中山間地、離島がどうあるべきかは、まずは行政で対応が可能かどうかを判断し、その後で移転、再編を考えるべき。住民選択に沿った支援が必要である。

### 2. 多様なライフスタイル

#### (1) 子育て支援のあり方を明確にする必要があるのではないかと。

- ・子育ての支援も重要ではないか。産婦人科まで 30 分圏、60 分圏など産婦人科の配置も重要である。

以上